

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信を除こう
- 世界を友愛と信頼の絆で結ぼう

高崎ユネスコ

<http://takasaki.gunma-unesco.com>

Ust

発行所

高崎ユネスコ協会

高崎市高松町35番地1

(〒370-8501)

高崎市市民部

防犯・青少年課内

電話 (027)321-1297

上野三碑ユネスコ

「世界の記憶」登録を祝う

会長 樋口克己

本年十月三十一日、上野三碑がユネスコ「世界の記憶」に登録されました。大変めでたいことです。ユネスコ活動に携わっている者として喜びはひとしおでした。

登録が実現したのは、上野三碑世界記憶遺産登録推進協議会（横島庄治会長）、群馬県、高崎市及び関係団体の方々のたゆまぬ尽力があつたためと思います。

上野三碑とは高崎市に所在する三つの石碑（山上碑、多胡碑、金井沢碑）の総称です。国内に現存する平安時代以前に造立された石碑は十八例しかなく、その内三つが高崎市南部に集中しています。

碑に刻まれた内容は当時の日本社会制度や家族制度、東南アジアとの国際交流の様相を伝えるもので、その重要性から三碑とも国の特別史跡に指定されています。山上碑は日本語の語順で漢字を並べた最古級の歴史で大変重要です。

ユネスコ協会の役割

ところで、私たち高崎ユネスコ協会にはどんな役割があるでしょうか。ご承知のように、上

資料、多胡郡の建郡を記した多胡碑の文字は一六世紀以降の日本と中国の書の手本にされてきました。金井沢碑は仏教の広がりと当時の家族制度が記されていました。

高崎市内に住む私たちにとって三碑は大変身近な存在で、吉井町に住む私は子どもの頃から接してきました。今、それらがユネスコ「世界の記憶」に登録され大変喜ばしい限りです。

上野三碑の保護保全や広報に努める団体や関係者は多々あります。全市民的な活動に広げていく上で大変よい事だと思います。上野三碑世界記憶遺産登録推進協議会は登録後の今後は新たな活動を展開していくことでしょう。「上野三碑ボランティアの会」の活動は今後さらに重要性を増していくことは確実です。「山上碑・金井沢碑を愛する会」のような地域に密着した石碑の保護・保全活動もすばらしいことです。また、「上野三碑をつなぐ会」の活動も三碑を訪れる人の利便性を高める上で大変重要です。

ユネスコ協会がやること

私たち高崎ユネスコ協会は他の団体と連携しながら、会員及び市民への情報発信を続けていきたい。過日の県工連五十周年記念講演の横島講師から、高崎ユ協の世界遺産委員会が発信した上野三碑「世界の記憶」登録記事号外版が激賞されたのも心強いことでした。

私たちユネスコ協会は自分たちがやれることを地道にやつていただきたいと思います。会員の皆様、市民の皆様、よろしくお願ひ申し上げます。

野三碑はまだまだ知名度や認知度が高いとは言えません。私たち高崎ユネスコ協会は、「研修視察」を主管し、県内のユネスコ会員とともに上野三碑に関する研修をしました。その時の講演会講師が登録推進協議会長の横島庄治氏です。その後多胡碑と多胡郡正倉跡の発掘現場を視察しました。ユネスコ会員へ

昨年十月、群馬県ユネスコ連絡協議会の事業の一つである「研修視察」を主管し、県内のユネ

スコ会員とともに上野三碑に関する研修をしました。その時の講演会講師が登録推進協議会長の横島庄治氏です。その後多胡

碑と多胡郡正倉跡の発掘現場を視察しました。ユネスコ会員へ

の理解を高めるためのよい研修になつたと思います。また、今年十一月に開催された県ユ連創立五十周年記念式典には再度、横島庄治氏を招いて「上野三碑と風土文化」という演題で記念講演をしてもらいました。私たちはユネスコ会員にとって大変示唆に富む内容で、私たちが今後世界遺産・未来遺産・地域遺産に関する活動を進める上で参考になりました。



二〇一七年十月三十一日早朝、パリ発・上野三碑のユネスコ「世界の記憶」登録の一報が寄せられました。

今度こそはと、その朗報を見守ってきた高崎市民をはじめ、関係団体等からは一斉に歓喜が上がりました。

横島庄治登録推進協議会長は記者会見で、富岡賢治市長は式典において、その喜びを市民と分かち合い、安堵しました。その歓喜の輪は瞬く間に上野三碑の地元はもとより、市内全域に広がって行きました。



碑文について説明するボランティア

記者会見で、富岡賢治市長は式典において、その喜びを市民と分かち合い、安堵しました。その歓喜の輪は瞬く間に上野三碑の地元はもとより、市内全域に広がって行きました。

同時に、その碑文の一文字、一文字を正しく学び東アジアはもとより、世界の平和と共存の礎に築きあげていければとの想いを強くしております。

当日は、三碑ともに見学者が途切れることなく訪れていました。また、「上野三碑ボランティア会」や「山上碑・金井沢碑を愛する会」の方々が解説や麦茶接待などで活躍されていました。今後も、無理をせず、息の長い活動をお願いしたいと思いました。

以下、当日の様子を写真で紹介します。

二〇一七年十月三十一日早朝、パリ発・上野三碑のユネスコ「世界の記憶」登録の一報が寄せられました。

今度こそはと、その朗報を見守ってきた高崎市民をはじめ、関係団体等からは一斉に歓喜が上がりました。

世界遺産の地として、人々が共有する機会提供に重点を置いた啓発活動を図るべきかと思います。

世界的視野から見て、上野三碑の歴史的・文化的価値は高いとはいえ、多くの方々に理解され、親しまれるのには労力や時間がかかると思っています。私自身もまだ本当に理解できていません。今後、少しずつ学んでいきたいと考えています。

高崎の歓喜は最高潮に！ 上野三碑が「世界の記憶」に決まる



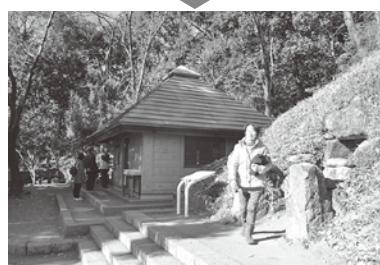
上野三碑めぐらべ



山上碑東屋



多胡碑



山上碑と山上古墳



金井沢碑東屋



金井沢碑

第39回国際理解バス

～国際理解バスを実施して～

国際理解バス部長 中島千恵美

夏休みも終わりに近づいた八月二十四日。今年はJICA地球ひろばとケニア共和国大使館へ三十五名の小中学生と引率者七名で行つてきました。

七月に行われた事前研修会ではケニアの挨拶「ジャンボ！」をユネスコ会員が披露したり、地球ひろばやケニアの様子も説明したりしました。この研修では、児童生徒の主体的な取組に期待し、訪問先での挨拶は全て児童生徒が行うことになつています。英語での挨拶もあり、各班の代表が役を引き受け当日に備えました。

今年印象に残ったことは、地球ひろばのSDGsの展示でした。持続可能な開発目標で、十七の目標の内、二〇三〇年までに自分が達成したい内容を考えるコーナーがとても多かつたことです。私自身、SDGsという文字を見たことは有りましたが、具体的な開発目標が分かりやすく書かれていた掲示は見たことがなかつたので、改めて自

身に問い合わせ、No.16「平和と公正をすべての人々に」を持続可能な開発目標といたしました。

ユネスコ国際理解バス部では研修報告書を毎年作成し、参加者や各学校に差し上げています。この冊子は児童生徒の見聞きしたことが凝縮され、研修の深さを感じ取ることが出来ます。参加した児童生徒は好奇心や探求心を發揮し、充実した一日を過ごしてくれたことが文面からも伺え、今年も実施してよかったです。嬉しい気持ちにさせてくれました。

JICA地図では、世界の楽器や民族衣装などがあつた。また開発途上国のさまざまな問題も知つた。貧しくて食べ物が手に入らず病院にも行けない。厳しい生活で死んでしまう子どももたくさんいる。そんな中、JICAの活動はすばらしいと思う。エジプトの砂漠に吹く風を利用して風力発電を建設したり、感染症から人々を守るために専門家を送つたりしていることも知つた。

また、青年海外協力隊に参加している人の体験も聞いた。一番心に残っていたのは、電気がつくと喜びのダンスを踊るということだ。日本では電気がつくのはあたりまえで考えた事もなかった。電気がつかないということは、家電製品がすべて使えないということだ。それらの国々と比べて、本当にぼくたちはぜいたくなく暮らしをしていると思った。

ユネスコ国際理解バスに参加して学んだこと

片岡小学校6年 松本 俊貴

お昼は、世界の料理を食べた。

ハラールチキンのムルギーカ

ケニア大使館は、他の家と違つてすごく大きい家だと思

つていた。行ってみると住宅地にあり、まわりの家と同じような大きさだつた。しかし、レッドカーペットがしいてあり、小さい部屋がたくさんあつて見た目より大きく感じる家だつた。

ケニアの人の説明を受けていたときにお茶をいただきた。

おいしかつたのでどこで売っているのかを聞いてみたらJICAに売つていていた。

買えばよかつたと後悔した。

ケニアのことについて説明してもらつた。面積は約五

八万三百六十七平方kmで日本の倍だつた。思ったより面積が大きくてびっくりした。

ケニアの国旗の黒はケニアの人々で、白は平和と統一。赤

は平和を勝ち取るために流された人びとの血。緑は農耕地。

ケニアの国旗は何があつても自分の国は自分で守るという意味だつた。

国旗にもたくさんの意味がある

思い出した。他にも色々の料理を食べておいしかつた。



JICA地球ひろば前で
記念撮影

味も調べてみたい。

今回の体験で、発展途上国にも興味を持つことができ良い経験になつたと思う。最後に、引率してくださいました役員の方々、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

国際理解バスに 参加して

中川小学校6年 武井 魁

八月二十四日、ユネスコ国際理解バスに参加しました。

最初にJICA地球ひろばに行きました。JICA地球ひろばで、SDGsについて学びました。SDGsは二〇三〇年まで世界の貧困をなくすために決めた十七の目標で、世界中の一人一人が取り組むことが大事だという話でした。はじめ、ぼくにはあまり関係ない遠い国の人たちが、説明を聞いていましたが、「自分にもできることがある」、「周りの人に知つてもらつて、一緒に努力するのが大事」だということがわかつて、家に帰つてからJICAでもらつたクリアケースや資料を見せて家族に話しました。

見学の後、お昼ご飯を食べま

した。世界の料理がどんな食べ物か期待していましたが、大好きなカレーや唐揚げがあつてうれしかつたです。いつも食べるカレーや唐揚げと違つて、辛かつたりスペイスの香りがしたり

ぼくが一番印象に残つたのは、ケニア大使館です。大使館の中はフワフワした赤いじゅうたんがしいてあり、土足で入ります。出発の時に、「ケニア大使館の中は外国と同じです。」という話を聞きましたが、ケニア大使館は東京にあるのに、まるでケニアにいるみた感じがして、ものすごく不思議でした。大使館でごちそうになつた紅茶は、今までに飲んだ中でいちばんおいしくて、びっくりしました。

ばれたそうです。

あと、ケニアの初代大統領が

国際理解バスに 参加して

箕郷中学校1年 飯島 拓己

ぼくは、この国際理解バスを通して、たくさんのこと学べました。例えば、世界には発展途上国や貧しい人がとても多いことや、JICAの活動、ケニア共和国などについてです。今まで日本と同じレベルで生活している人は、世界で四十分くらいだと思つていました。しかし実際には二十%。五人に一人しかいないということを知り驚きました。

そもそも日本と同じレベルの生活はどういうことでしょうか。簡単にいうとぼくたちが当たり前と思つていること、例えた。ぼくは、事前学習でケニアの国旗に興味があつていろいろ調べました。が、四十二も民族がいるのにどうしてマサイ族の人々の血、「緑」：農耕地、やケニアの説明などを受けました。ケニアの国旗の色には、「白」：平和と統一、「赤」：平和を勝ち取るために流された人々の血、「緑」：農耕地、守る、という意味があるそうです。豊かな土地なのに長い間民族間の争いでたくさんの人が亡くなり、平和への強い願いがあるんだと思いました。



ケニアについてのお話をきく

生活はどういうことでしょうか。簡単にいうとぼくたちが当たり前と思つていること、例えた。ぼくは、事前学習でケニアの国旗に興味があつていろいろ調べました。が、四十二も民族がいるのにどうしてマサイ族の人々の血、「緑」：農耕地、やケニアの説明などを受けました。ケニアの国旗の色には、「白」：平和と統一、「赤」：平和を勝ち取るために流された人々の血、「緑」：農耕地、守る、という意味があるそうです。豊かな土地なのに長い間民族間の争いでたくさんの人が亡くなり、平和への強い願いがあるんだと思いました。

豊かな日本に生きるぼくたちにできることは、世界のいろいろな国のこと勉強したり、資源を大切にしたりすることだと

で働く、でも稼げるのは一日にたつたの百円～二百円。僕が何気なくペットボトルやお菓子を買つてしまふお金です。ぼくには信じがたい事実です。

国際理解バスに 参加して

箕郷中学校1年 飯島 拓己

JICA地球ひろばでは、地球案内人の方が自分の体験について話してくれたり、体験コーナーで発展途上国について学んだりしました。学校に行きたくても行けない子がたくさんいること、何でもある豊かな日本だから、世界中の人が安心して生活できる社会を作るために協力が必要であること、JICAは発展途上国と日本を結ぶ架け橋になつてることなど学べました。

思います。「食べ残しをしない」、「水や電気を大切に使う」など身の回りのことでもちょっと心がければできることも身近な国際協力です。切手や書き損じはがき、ペットボトルの回収などへの参加もすぐにできることです。自分の生活を見直し、できることをしていきたいです。そしてまた、このような機会に参加していきたいです。

国際理解バスに 参加して

大類中学校2年 関端 遙佳

私は、今回初めてこのような研修に参加させてもらい、行く前は、期待と不安、緊張など、いろいろな感情が混じつていました。でも、行くときのバスの様子などで、不安はなくなり、安心してこの研修を楽しむことができました。今回の研修では二つの研修場所に行つたので、感想を大きく二つに分けて書きます。

最初はJICA地球ひろばについてです。たくさんの展示があり、驚きました。学校で学んだ地球温暖化や貧困の差などをさらに詳しく知ることができたし、今までそんなに知らなかつた、難民やアフリカの教育状況

なども新たに学ぶことができました。また、実際に、ネパールに青年海外協力隊として行つたのは、とても良かったです。私は、テレビのニュースや新聞、本などで、開発途上国に行つた人の話や開発途上国の状況を見たり、聞いたりします。そして、「海外に行つて生活が困難な人たちの役に立ちたい」と思います。でも、いろいろ大変そうだし、どうやつたらそういう活動をすることができるのかがわからなかつたため、自分には、できないことだと決めていました。でも、伊藤さんが青年海外協力隊という海外ボランティア事業があることややりがい、現地の様子などを丁寧に話してくれたので、そういう活動に興味を持つことができました。

次にケニア大使館についてです。大使館には行ったことがなかつたので、貴重な体験ができました。ケニアについて映像を見たり、質問と答えを聞いたりしました。途中で急に、ミルクティーをもらいました。私は、紅茶系のものが苦手ですが、ケニア産のものだつたからか、全部いたくだ



ケニア大使館内で記念撮影

第73回日本ユネスコ大会に参加して

高崎ユネスコ協会 副会長 豊泉 君代

七月十五、十六日の二日間、仙台国際センターで開催された第七十三回日本ユネスコ全国大会に参加してまいりました。民衆が驚きながら笑ってくれたので、とても嬉しかったです。今回の研修から、いろいろなことを学びました。将来の夢に青年人海外協力隊という選択肢もできだし、話す相手の国の言葉で話すと喜んでもらえることがわかったので、将来、日本語と英語以外にあと一か国ぐらい話せるように勉強したいと思います。また、今自分が、開発途上の方たちに何ができるか考え、募金を積極的にしたいと思います。

一日目は、「気候変動に挑戦する知と勇気をもつ若者を育てる」というテーマで、ノーベル平和賞受賞のラジエンドラ・クマール・パチャウリ氏のご講演がありました。激動する気候変動にどう対処すべきか、といふことから始まり、それは地球規模の平和への脅威にもつながり、これらへのアクションには世界の若者の参加は不可欠であるということでした。

また、高校生パネルディスカッションでは、「ユネスコ憲章が私たちに届けるメッセージ」というタイトルで、ユネスコ



松浦晃一郎前ユネスコ事務局長とともに

した。

続いて、「ESD地球の平和を守ろう」（環境、防災、文化の実践者による討論）、というテーマで、パネルディスカッションが行われました。格調高いテーマの合間に、少年少女合唱団によるコーラス、国的重要無形文化財の秋保の田植え踊り、ユネスコ平和芸術村の二村英仁氏のヴァイオリン演奏等がありました。

また、懇親会では、四百年前に伊達政宗公の前で披露されたというめずらしい仙台すづめおどりやたくさんの演技を楽しむことができました。

おそらく、何年も前から準備されたであろう数々のプログラムには、日本ユ協の皆さん、仙台ユ協の皆さん、そして関わられたたくさんの人々の並々ならぬ熱意を感じました。おりしも、北九州では豪雨による被害が報道され、世界ではどこかで紛争が行われています。思いをあらたにユネスコ活動の大切さを実感した二日間でした。



「関東ブロック・ユネスコ研究会in市川」に参加して

松本千恵子

十月十四日・十五日、秋とは思えぬ寒さの中、昨年十二月に竣工したばかりの千葉県市川市山崎製パン総合クリエイションセンターにて、「民間ユネスコ運動七十周年記念！」（Pea

c e f o r T o m o r r o w 広げよう平和の心）と題し、

「2017年度関東ブロック・ユネスコ活動研究会in市川」が開催されました。当協会からは初日に九名が参加しました

委員会委員長、西村幸夫氏によつて行われました。冒頭は二日前に出たばかりの米国とイスラエルのユネスコ脱退声明について。私の中の「何故？」が解けました。ムスリム対アメリカの

図式はパレスチナ対イスラエルで象徴されます。世界平和実現を希求し高邁な精神で作られた国際機関が世界遺産認定をめぐつて争いの種を生む、とは皮肉なことです。一九〇七年ハーグ条約の条項「文化遺産は戦争でも守られなければならない」が批准され、旗を掛けた文化財に攻撃をしないことに。一九四〇年実際にパリとベネチアはブルーシールド旗のおかげで攻撃を免れたそうです。最近六年間で

第二部は五分科会に別れそれぞれ研修を行い、再度全体会で閉会式が行われ、熱く活気に満ちた大会は成功裡に終了します。

第二部は五分科会に別れそれぞれ研修を行い、再度全体会で閉会式が行われ、熱く活気に満ちた大会は成功裡に終了します。

日本人は、古来、中国や西欧諸国の文明をうまく取り入れ、かみ砕き、自分たちに合うよう作り直しながら生きてきた。日本を取り囲む諸外国の人々に感謝の念を忘れずに、そして日本人としての誇りを失うことなく、心の片隅に常に謙虚さを保ち続けながら生きていきたいと思う。

非常に残念なことです。
貴重な話が続き、未来遺産は少々駆け足。葬祭は実際に葬の葉を一万枚も使うこと、不足してきたことをご存知ですか？毎年使う葬の葉が消失する危機感

して長年尽力なさってきた方々に心より敬意を表したい。

私が上野三碑でまず心動かさ

れたことは、専門家でない私でも

登録プロジェクト「あおいプロ

ジェクト」が紹介されました。

「未来遺産運動」は日本の文化を正しく知り、守り、伝えるに留まらず、地方活性をも予感させます。

上野三碑がユネスコ「世界の記憶」に登録された。三碑の歴史的価値を信じて、登録を目指して長年尽力なさってきた方々

の実践者による討論）、という

テーマで、パネルディスカッショ

ンが行われました。格調高い

テーマの合間に、少年少女合唱団によるコーラス、国的重要無

形文化財の秋保の田植え踊り、ユネスコ平和芸術村の二村英仁

氏のヴァイオリン演奏等があり

ました。

また、懇親会では、四百年前に伊達政宗公の前で披露された

というめずらしい仙台すづめおどりやたくさんの演技を楽しむ

ことができました。

また、懇親会では、四百年前

に伊達政宗公の前で披露された

というめずらしい仙台すづめお

どりやたくさんの演技を楽しむ

ことができました。

また、懇親会では、四百年前

に伊達政宗公の前で披露された

というめずらしい仙台すづめお